

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年6月2日  
確定日 平成22年6月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775802198		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家平野		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市平野区加美西2-6-13		
自己評価作成日	平成22年5月3日	評価結果市町村受理日	平成22年6月23日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do</a>
情報提供票を活用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号
訪問調査日	平成22年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の要望を聞きながら、出来るだけ外出の機会を作るように取り組んでいる。
----------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JR加美駅から徒歩7～8分に位置する当ホームは、平成18年3月に開設した2階建て2ユニットから構成され、ケア21が運営している。「人を大事にし、人を育てる」が会社の方針であり、研修も法人内部で充実しており、職員に対するキャリア支援体制が整っている。若い職員はベテラン職員を通して学び、入居者に接することで感じ、理念である「入居者本位」のケアの実現に向け取り組んでいる。職員は穏やかな態度で入居者に接しており、入居者も笑顔で応えるなど、和やかな雰囲気である。職員全員が2ユニット18名をケアできるようにとローテーションを組んでいたが、ケアの体制を考慮して職員はユニットで固定し、担当制を設けることで入居者より馴染みの関係が築け、不安やダメージの軽減につながっている。ホーム内は全体的に窓が大きく、自然の光がとり入れられ、雰囲気は明るく清潔に保たれ、居心地の良い空間となるよう配慮されている。地域との関係については、地域の行事に参加したり、地元のボランティアの訪問などがある。今後は、入居者一人ひとり個別の外出支援について検討し、取り組んでいきたいと考えている。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげられるように努力している。	事業所内にホーム理念を掲げ、申し送り時には唱和している。理念は職員から意見を募り管理者が取りまとめたものであり、各職員は理念を常に意識している。入居者にとってホームでの生活を楽しくもらえるよう、職員一人ひとりが考えを持ち行動できるよう取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	交流している。	町内会に入っており、地域の行事や祭り、また、年1回実施される地域の防災訓練に参加している。福祉センター主催の行事への参加やふれあいサロンに週1回通い、地域の方との交流の機会がある。そこで知り合った方がボランティアとして訪問してくれている等、地域の一員としての関わりを大切にしている。	開設して5年が経過し、さらに積極的な地域との交流の機会や関わりが持てるよう、近くの小学校等との交流やふれ合いなど、子ども達との関わりについても期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事やふれあいサロンに参加し、少しずつ生かされている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、意見を聞き反映するように努めている。	2カ月に1回、町内会長、民生委員等、地域の代表を始め地域包括支援センターの職員もメンバーとして参加している。会議では入居者の現状等を話し合い、時にはアドバイスを受け、支援に活かすようにしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の状況報告に努め、情報の共有に努めている。	区の福祉課のケースワーカーとの連携を密に行っている。地域包括支援センターの職員には運営推進会議に参加してもらいアドバイス等を受けている。	運営推進会議以外にも市や区の介護保険担当者と直接的な意見や話し合いができる関係を築いていくことに期待したい。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	研修に参加し、職員にも伝達研修して取り組んでいる。	身体拘束について、各職員は研修で学んでいる。ホームの理念にも精神的、身体的拘束はしないと掲げている。ホーム前の道路は交通量の多いこともあり、安全のためフロアの出入り口の施錠は行っているが、玄関は開錠している。また、居室の窓にはストッパーをかけており、ある一定の隙間しか開かないようになっている。	鍵をかけることへの弊害について理解しており、改善策についても模索している。職員の見守り方法、連携、入居者の外出願望が強くなる時間帯や傾向をつかむなど、最小限にできるよう今後の取り組みに期待したい。
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を持っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解し、納得できるように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させるように努めている。	家族の来訪時には声をかけてコミュニケーションを図り、話しやすい環境づくりに努めている。入居者や家族より、意見や要望を聞いて運営に反映させようと努めている。また、玄関には意見箱を置き、毎回、運営推進会議への参加を呼びかけている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開き反映させている。	月1回、スタッフミーティングを開き、職員の意見や提案、介護計画等についての話し合いの機会が設けられている。参加できない職員のために、数回を分けて行い確実に全ての職員に情報が伝わり、共有できるようにしている。また、職員の異動に関してもその都度、職員の意見を反映し、働く意欲やサービスの質の向上につなげている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様に話を聞き、必要なサービスができるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりと時間をかけながら築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の意向をふまえ、関係づくりに努めている。		
20	8	馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	友人や知人等に自由に来訪してもらえよう、家庭的な雰囲気大切に支援を行い、馴染みの関係が継続していくよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族様に話を聞き、必要なサービスができるように努めている。	職員は日々の生活の中で、入居者の行動や表情から思いや意向を汲み取るよう努めている。関わり方や方法等については、入居者にとって一番よい方法を職員間で話し合い、検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや記録などで把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	入居時に、本人、家族の意向を聞き、それをもとに介護計画を作成している。ケアカンファレンスを定期的に関き、入居者の状況を把握し、モニタリングを行っている。また、状態の変化に応じて見直しを行い、担当医、看護師の意見も確認し、現状に即したケア計画になるよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス担当者会議を開いて、活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組めるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	月2回の往診がある。主治医は往診以外にも24時間対応している。協力病院も確保されていて、適切な医療が受けられるよう支援している。訪問看護ステーションが週1回訪問し入居者、職員と共に健康管理を行っている。常時相談できる体制にあり、医療に関する知識の勉強会も行なっている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた体制を整えており、本人や家族の意向を踏まえ、医療機関と連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時本人、家族の意思を確認しながら取り組んでいる。職員はターミナルケアの研修に参加したりしており、看取りの経験はまだ無いが、入居者に応じたケアに対応できるようチームで支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身に付けて行く様に努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	努めている。	マニュアルを作成し、入居者とともに防災訓練を定期的（6カ月に1回）に行なっている。地域、自治会との合同訓練にも参加している。職員は非常用の食料等の保管場所を把握している。	ホーム内のみならず地域の訓練へ参加する等、積極的に取り組んでいることから、今後は災害時に備えて、防災備蓄品のさらなる充実、点検を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応するように努めている。	入居者の人格や誇りを尊重し、言葉づかいや口調に注意しながら介助を行なっている。個人情報の取り扱いやプライバシー保護についての研修を行い、ミーティングやカンファレンス時に確認し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援できるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できていない。	専門の職員が毎日の栄養バランスを考えながら食事を作っている。入居者に応じて食べやすい方法を工夫し、食事の時は職員とテーブルを囲み、家庭的な雰囲気や食卓を大切にしている。体調に合わせて介助も行なうが、なるべく自分で食べられるような支援や援助を行なっている。	食事という一連の過程の中で、入居者一人ひとりの持っている力を引き出し、例えば茶碗洗いは難しいがすすぎはできるなど、本人の体力・能力に応じて、入居者と職員と一緒にできることを検討し、できる環境をつくりあげていくことに期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	行えている。	排泄チェック表で確認しながら、個々の排泄パターンに応じた個別の支援に取り組み、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。失敗があった時はさりげなく対応し、羞恥心や不安のないよう心がけている。オムツ交換は居室にて行い、不快感のないよう介助している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	DRと訪看さんと連携して行えている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を分けてしている。	週2回、午前中の中の入浴となっているが、本人や家族の希望があれば対応している。職員の見守りの中、一人ひとり入り、個々に応じた介助を行ない、ゆったりとした気持ちで入浴できるよう各ユニット、1日3名の入浴としている。拒否される方には無理強いせず、個々にそった支援を行い、入浴できない時は足浴や清拭、半身浴等の対応も行っている。	希望がある場合には対応しているが、曜日や時間帯が概ね決まっていることから、その日の入居者の希望を確認し、入ってもらえるような工夫、検討を期待したい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できるように努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	出来ていない。	<p>徒歩5分位の所にある福祉センターの行事やふれあいサロンに参加し、地域の方々と交流を行っている。個別に行きたい所へ自由に行けるような機会は作られていないが、その時々状況に応じて、近くの公園に散歩に行ったり、家族と外出を楽しんだりしてもらえるよう支援している。</p>	<p>個別の買い物やドライブ、外食等、一人ひとりの楽しみを見つけ、希望の場所に出かけることができるよう、職員間で話し合い、工夫や方法について検討されることを期待したい。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	支援している。			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	支援している。			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	工夫している。	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、廊下には手すりが設置され、床もすべらない工夫がされている。トイレ、浴室は分かりやすく表示され、居室入り口には目印をつけた手作りの表札があり、混乱のないように工夫されている。リビングには畳の部屋があり、マッサージチェアやカラオケセット等もあり、寛げる環境が整っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	工夫している。			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	工夫している。	<p>タンスや寝具、写真、仏具等、使い慣れた物、思い出の品々が持ちこまれ、家庭的な雰囲気ですぐ居心地良く過ごせるよう工夫している。室内は明るく、整理整頓されている。入居者によっては持ち込みの品が少ない場合や、認知症の症状による結果、一見殺風景と感じる部屋もあるが、本人にとっては落ち着いて生活できるように努めている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	工夫している。			

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない</p>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない</p>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		<p>大いに増えている</p> <p>少しずつ増えている</p> <p>あまり増えていない</p> <p>全くない</p>
66	職員は活き活きと働いている		<p>ほぼ全ての職員が</p> <p>職員の3分の2くらいが</p> <p>職員の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての利用者が</p> <p>利用者の3分の2くらいが</p> <p>利用者の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての家族が</p> <p>家族の3分の2くらいが</p> <p>家族の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどできていない</p>

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年6月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775802198		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家平野(2階)		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市平野区加美西2-6-13		
自己評価作成日	平成22年5月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do</a>
情報提供票を利用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号
訪問調査日	平成22年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の要望を聞きながら、出来るだけ外出の機会を作るように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげられるように努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事やふれあいサロンに参加し、少しずつ生かされている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、意見を聞き反映するように努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の状況報告に努め、情報の共有に努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	研修に参加し、職員にも伝達研修して取り組んでいる。		
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を持っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解し、納得できるように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させるように努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開き反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様に話を聞き、必要なサービスができるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりと時間をかけながら築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の意向をふまえ、関係づくりに努めている。		
20	8	馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族様に話を聞き、必要なサービスができるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや記録などで把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス担当者会議を開いて、活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組めるように努力している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身に付けて行く様に努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応するように努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援できるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できていない。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	行えている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	DRと訪看さんと連携して行えている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を分けてしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	出来ていない。		
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	支援している。		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	支援している。		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	工夫している。		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	工夫している。		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	工夫している。		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	工夫している。		

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない</p>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない</p>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		<p>大いに増えている</p> <p>少しずつ増えている</p> <p>あまり増えていない</p> <p>全くない</p>
66	職員は活き活きと働いている		<p>ほぼ全ての職員が</p> <p>職員の3分の2くらいが</p> <p>職員の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての利用者が</p> <p>利用者の3分の2くらいが</p> <p>利用者の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての家族が</p> <p>家族の3分の2くらいが</p> <p>家族の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどできていない</p>